

## 2.梅毒の治療

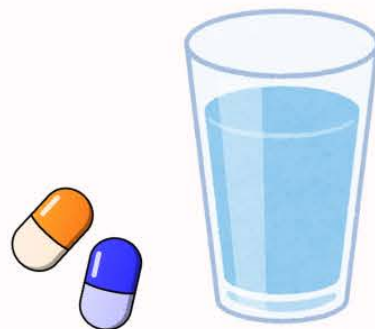
### 1) 治療薬

#### 第一選択薬

ベンジルペニシリン（ステイルズ）240万単位筋注  
早期梅毒では1回、後期梅毒では週1回、計3回

#### 代替薬

アモキシシリン500mg1日3~4回内服  
ミノサイクリン100mg1日2回内服（ペニシリン系薬アレルギーがある場合）  
早期梅毒では2週間、後期梅毒では4週間



### 2) フォローアップ

治療開始後に発熱、倦怠感、頭痛、筋痛、皮膚（Jarisch-Herxheimer反応）が起きる可能性を患者に必ず説明し、薬剤アレルギーと自己判断し治療を自己中断することがないように、解熱剤使用などの対症方法を説明しておく。治療終了後の効果判定は6か月後ならびに12か月後に行い、RPRが1/4以上低下しているもしくはRPR8未満へ低下していることを確認する。RPRの低下が乏しい場合は治療失敗と判断し、再治療を行う。

## 3.性感染症スクリーニング

後日、他の性感染症の重複感染を念頭に、クラミジア、淋菌、B型肝炎、HIVなどのスクリーニングを行う。  
また、パートナーの梅毒検査および治療も必ず行う。



## 4.専門家への相談

診断や治療の判断に難渋する例、神経梅毒を疑う例、妊婦、治療効果不良例などは専門家へ相談する。